



2016年後期のQUEST実施



三ヶ田 均

工学研究科教育制度委員会
国際化対応ワーキンググループ

すでに本ニュースレターでもご紹介した通り、2016年10月から京都大学工学部・工学研究科・情報学研究科による10週間の英会話トレーニング・コースQUEST (Kougaku Workshops for English Skills Training) が開講された。QUESTは、講義時間終了後、学外の英会話スクールなどによる英会話やTOEFL受験講座を、受講料学生負担で学内受講可能とする、京都大学では初めての試みで設けられたトレーニング・コースである。このコースの終了に合わせ、成果発表会、最終アンケート、そして自己点検のための実力判定という3つを実施し、学生の英語力向上やコース受講に関する意識について調査を行なった。興味深いデータも得られており、ニュースレターで報告する。

1.成果発表会

桂キャンパス及び吉田キャンパスにおいて、開講された10クラス全てが参加する成果発表会が行われた。



写真1 平成29年1月13日(金)桂キャンパス桂ホールにおけるAdvancedクラスの結果発表風景

QUEST参加者全70名の約半数が、成果発表会のために準備した自由テーマについて数分間のスピーチを行なった。受講開始時、英語で話しかけられてほぼ一様にうつむいて沈黙した学生達が、10週間のトレーニング期間を経て、自ら登壇し英語で自己主張する姿は感動的でした。今後、国際会議などに際し、成果発表会に参加した学生は全員が臆

することなく発表する能力を身につけたであろうと考えられる。成果発表時に学生アンケートを実施し、回答を得た26名のうち、2名は平成28年度で卒業・修了するものの、18名(75%)が再受講を希望していたことも印象的であった。



写真2 平成29年1月16日(月)吉田キャンパスNSホールにおけるIntermediateクラスの結果発表風景

2.最終アンケート

トレーニング・コース最終時間にアンケートを実施した。全70名の受講学生の内52名から回答を得ることができた。QUEST実施に関する参加学生の意識調査を目的とする全32項目を設問として設定した。紙面の都合もあり、その32問の中から2問をご紹介します。まずQUEST受講について、参加してよかったと思ったかどうかを尋ねたところ、図1に見られる通り、5段階評価の高評価となる4と5で84%に達する結果となった。次に、「受講料学生負担」というシステムであるQUESTに関し、受講内容の対価として自らの懐を痛めた受講料が妥当であったかどうかを確認する質問を行った。その結果、図2に見られる通り、67%の学生が、適切であった、安価であった、非常に安価であった、との評価をしていることがわかった。大学は、QUESTの開始にあたり、各スクールに価格設定を可能な限り低く抑えることを要請した。学生の回答は、その要請の効果があったことを示していると考えられる。

3.学生の英語力向上

QUESTでは、トレーニング・コースに参加した各学生の受講前後における実力の変化を把握すること、そしてその結果を参加学生にフィードバックすることを各スクールに要請している。試験期間とも重なり、最終の実力判定に参加しなかった学生も多かったが、判定できた学生の場合、QUEST終了後、受講前に比較し、TOEFL・iBT換算で10点以上、TOEIC換算で100点以上の伸びを示した学生も散見された。英会話スクーリングやTOEFL講座受講が、個々の学生の英語力向上にいかにか効果的に寄与したかを知るチャンスとなった。

4.終わりに

2016年度後期から開始されたQUESTは、その効果や学生の評判の高さから2017年度も継続して実施されることとなった。学期開始時の体験レッスンに参加した学生は、2016年後期71名に対し、2017年度前期開始時には102名と30%ほど増加している。まだまだ産まれたてのコースではあるが、今後学生の英語力向上に寄与する試みとして発展することを願ってやまない。

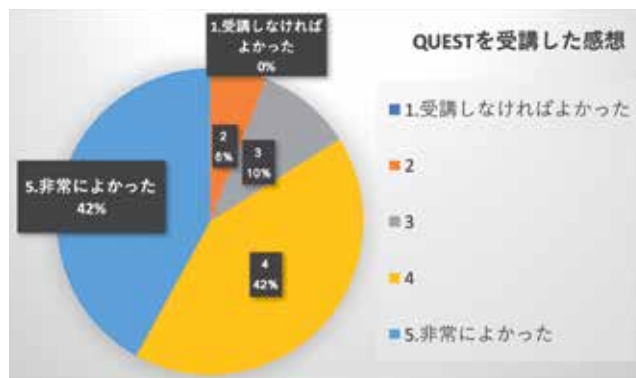


図1 QUESTを受講してよかったかどうかを尋ねた結果、ほとんどの学生が満足していることを確認した。

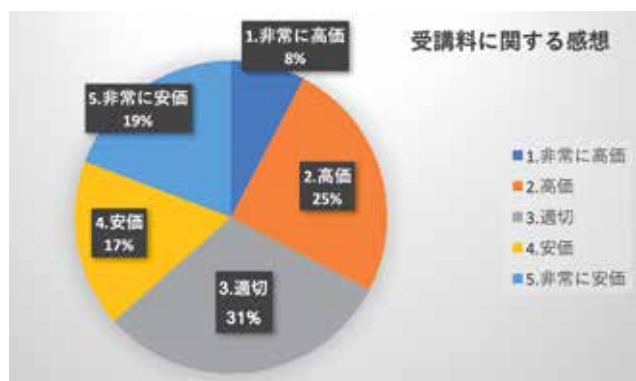


図2 各スクールが設定したQUEST受講料について尋ねた結果、2/3以上の学生が価格以上の成果を得られていると感じていることを確認した。

桂キャンパスの出島



長谷部 伸治
化学工学専攻 教授

このタイトルを見て、“??”と思って、読んでいただけたら幸いである。京都大学は“University”であり、吉田キャンパスでは様々な分野の講演会やイベントが開催されている。残念ながら、桂キャンパスで勉学に励む学生は、自ら能動的に行動しない限りその恩恵を十分に享受できない。ある意味で、鎖国化された環境の中で研究に励んでいる状況にある。雑念に惑わされずに一心に研究に励むことができるという点では望ましいが、往々にして新しい発想は異分野交流によって生まれるのも確かである。では、どうするか・・・

工学研究科附属グローバルリーダーシップ大学院工学教育推進センター（通称GL教育センター）は、2007年12月に創設された工学部及び工

学研究科における共通教育の国際化、実質化を支援することを目的として設立されたセンターである。設立経緯は、本紙36号（2011年発行）の榎本元センター長の紹介記事を見ていただきたい。上述したような桂キャンパスの環境の中で、GL教育センターは、“桂の国の出島”の働きができていないかと考えている。

出島の要素その1:本センターは、学生が異国の言葉（英語）を身につけるための様々な取り組みを行っている。本紙に三ヶ田副センター長が紹介されている、QUESTもその1つである。それ以外にも、学部、大学院生に対して、語学に関する共通型講義科目や英語による共通型講義科目の提供、ネットで学習できるALC NetAcademy2の提供などを行っている。また、センターにはTOEFLやIELTS受験のための様々な参考書を貸し出している。異国から訪れた学生（留学生）に対しては、様々なレベルの日本語クラスを提供している。今後、異国から訪れた研究者（外国人教員）による講義も充実させていく予定である。

出島の要素その2:本センターは、学生が専門分野にとらわれない広い視野を持てるような共通型講義演習科目を提供している。学部では、GLセミナーI（企業調査研究）、同II（課題解決演習）、大学院では、エンジニアリングプロジェクトマネジメント、及び同演習などである。このような学生参加型の講義や演習を受講し、異分野の学生や教員と交わることにより、世界で通用する俯瞰力、国際性、創造力、構想力、行動力を身につけてほしい。

出島の所在地は、右図のとおりである。また、写真は、2017年3月に行った開島会（オープンハウス）時の風景である。全国を旅する途中で、一度気軽に立ち寄られたい。



研究者として留学すること



久保田 結子

電気工学専攻 博士後期課程3年

私は修士課程より京都大学のスーパーコンピュータを用いて地球近傍を取り巻く放射線帯電子の急激な変動について研究してきました。シミュレーション解析を行う中、本当の宇宙空間の状態を示す精査されたものでない『生データ』を見て自分の構築した仮想空間が本当に適切なのか確認したいという欲求が生まれました。そこで私は『京都大学大学院工学研究科馬詰彰奨学寄附金』の支援を賜り、放射線帯探索衛星Van Allen Probesのプラズマ波動観測装置の主任研究者Craig Kletzing先生のいらっしゃるアメリカ・アイオワ大学 (University of Iowa) に4ヶ月間、海外研修を受けに参りました。

留学中は、初めて用いるデータ解析ソフトの使い方、仮想空間と違う『宇宙』の見方を教えて頂きました。全く新しい手法と今までと違う観点からものを見ることを求められるため、理解をするのには本当に苦労しました。しかしその理解を深める際にあった研修先の研究者の皆様との交流こそが、この研修で私が得た一番大きな成果だったと感じています。私はこれを、自由な学生という立場でなく一つの研究テーマを持った研究者として留学したからこそ得られた機会だったと思っています。

留学を考えていらっしゃる後輩の皆様には、どうか『英語を勉強する』以外の確固たる理由を持って海外に行ってほしいと思います。そうすればその理由がトピックとなり、共通の興味を持ったネイティブの学生や先生方と会話を交わすことができるからです。

最後にこのような貴重な機会をお与え下さったCraig Kletzing先生、大村先生、馬詰彰奨学寄附金関係者の皆様はこの場をお借りして御礼申し上げます。



研修先の皆さんとランチ後の雑談中

Filming 「Waku Waku Japan」 TV program



SORANASATAPORN Pattana

Undergraduate School of Industrial Chemistry

Second year

My name is Pattana Soranasataporn and I am from Thailand. Currently, I am studying bachelor degree in Industrial Chemistry at Kyoto University. Last October, I got an opportunity to participate in a Japanese TV program called "WAKU WAKU JAPAN TV" in "Catch Your Dream! -Study in JAPAN" series. This TV program will be broadcasted in various countries especially in South East Asia areas including Thailand.

The purpose of this program is to recommend famous universities throughout Japan. This time Kyoto University is their choice because it is one of the oldest universities in Japan with outstanding academic performances. There are 3 foreign students involved in this program: the other two are graduated students and I am the only undergraduate student. Other than me, one is from Taiwan and the other is from Indonesia.

The program was filmed in English so we did not encounter any problem concerning language. First, we start by introducing the facilities in the university, for example libraries, cafeterias and classrooms. There are many interesting places, such as the Kizuna lounge, with some corners that I did not even know. Apart from introducing our university facilities, we get to know each participant's favorite place and explore hidden corners in our university. We even get to introduce our favorite menu at the cafeteria.

After that, we get to introduce some famous spots around the university. One of which we liked the most is the Kamogawa-delta. It is really a nice place to relax and chill out with friends. I occasionally go there to relax after studying. They also filmed us at the Kiyomizu temple which is one of the most famous tourist attraction in Kyoto. The temple features a fantastic scenery of the city and many historical monuments.

In the evening, my apartment was filmed to give a picture of how living in Kyoto is. The three of us and the camera crew entered my apartment and they interview us on our daily lives. It was really interesting to learn how other participant is doing. For example, there is another girl and her apartment is in Uji. Because she is studying doctorate degree, her daily routine usually concerns going to lab which is really different from me, a first year student. I get to learn how lives are in other campus and how researching is. This really give me an insight of how my future studies will be.

By participating in this program, I made many new friends and learned a lot more about my university and its surroundings. Apart from that, it is a really fun and unique experience working in front of the camera and at the same time introducing the university. The staff and camera crews were also nice and friendly. It is a really nice experience and I would like to join this kind of program again if I have the chance.



インドネシア、ブラウイジャヤ大学Pitojo Tri Juwono工学研究科長他2名が工学研究科を表敬訪問され、本研究科との間で部局間学術・学生交流協定を調印しました。

ブラウイジャヤ大学は、インドネシアの東ジャワ州マラン市にある1963年に設立された国立の総合大学です。現在、15の学部を持ち、教員数約2,300名、学生数約64,000名を抱える大規模校であり、人文社会、理工、農水畜産、医学系を網羅し、インドネシアで上位に入る総合大学です。

工学研究科の社会基盤工学専攻・都市社会工学専攻の二専攻の研究グループは、2008年に最初の留学生を受け入れてから、ブラウイジャヤ大学都市地域計画専攻と共同研究の実施や留学生の受入、出張講義の実施など活発な交流を行ってきました。これらの交流の実績を踏まえ、個人レベルの国際協力・共同研究を土木工学分野における専攻間の国際協力・共同研究へと進展させ、各専攻における研究・教育のグローバル化を促進することを目的として、2014年にこの二専攻との専攻間学術交流協定が締結されました。この協定締結の一環として、2015～2016年に工学研究科が実施した国際化支援体制強化事業・ワイルド&ワイズ共学教育受入れプログラム事業において同大学修士課程学生を

短期交流学生として本学に受け入れる等、活発な交流を行ってきました。このプログラムには2017年以降においても申請が予定されています。両大学が有する幅広い分野の豊富な知見の交換および若手の人材育成は相互に有益であり、学術・学生交流をより発展させ、さらなる共同研究を推進するためには、部局間の交流協定締結が不可欠であると認識し、今回の協定締結に至ったものです。

一行は北村隆行研究科長を表敬訪問されました。これには共同研究の窓口教員である都市社会工学専攻の小林潔司教授、松島格也准教授も同席され、学術・学生交流について懇談を行いました。

最後に、北村研究科長とJuwono研究科長の署名により調印式が行われ、京都大学工学研究科とブラウイジャヤ大学工学研究科の今後5年間の交流が確認されました。



懇談風景



北村研究科長(左)とPitojo Tri Juwonoブラウイジャヤ大学工学研究科長

国際交流日誌 (平成28年10月1日～平成29年3月31日)

- 10月14日(金) ノルウェー科学技術大学新聞記者の工学研究科長への取材
- 11月4日(金) 清華大学深圳研究生院(中国)学生の工学研究科長表敬
- 12月7日(水) University of Muhammadiyah Yogyakarta(インドネシア)教員の工学研究科訪問
- 2月6日(月) ブラウイジャヤ大学(インドネシア)工学研究科長一行の工学研究科長表敬、部局間学術・学生交流協定調印式

The Committee for International Academic Exchange, Graduate School of Engineering, Kyoto University, Kyoto 615-8530, Japan
Phone 075-383-2050 / FAX 075-383-2038

615-8530 京都市西京区京都大学桂 京都大学工学研究科国際交流委員会